

学芸大学駅高架下リニューアルプロジェクト 2023年秋から2024年春にかけて順次オープン!

「まちの縁側」をコンセプトに、沿線ローカルにお住まいの方々と共創するまちづくりに取り組みます

当社は、学芸大学で暮らす住民や事業者、クリエイターの皆さまから寄せられたたくさんの想いを受けて、学芸大学駅高架下を、2023年秋から2024年春にかけて、ローカルに寄り添いながら、まちの未来にふさわしい場所へと少しずつリニューアルします。老朽化に伴う高架下建物の補修の必要性、高架下の暗いイメージの改善を望む声、周辺のまちづくり（補助第26号線の整備、碑文谷公園の活用検討）を契機として、2021年から学芸大学高架下リニューアルプロジェクト（以下、本プロジェクト）が始動しました。

東急株式会社



GAKUDAI KOUKASHITA



「まちに関わりたい」、「まちの人とつながりたい」、「まちにもっと居場所が欲しい」など、皆さまから寄せられた多くの声をヒントに、コンセプトを「南北1kmのまちの縁側」に設定。高架下をひとつの大きな縁側に見立て、お気に入りの居場所も、仕事も、友人も、ちょうどよく混ざり合うような場所を目指し、2023年～2024年に主に下記リニューアルを実施予定です。

カルチャー&フードエリア 気軽に立ち寄れるカルチャーショップや、店主の個性が光る飲食店、こだわりのテイクアウト店など、学大の2024年（春）予定 “ローカル”を感じられるお店が集結するエリアへと生まれ変わります。ベンチや植栽が増えて、テラススペースも充実。夜だけでなく朝や昼も滞在できる公園のような施設へ。

未来共創エリア 碑文谷公園に隣接した現駐車場エリアには、店舗とコワーキングスペース、アトリエ、オープンスペースを備えた複合施設が登場します。10年先の社会を見据えた新しい価値やサービスを、店主やワーカー、クリエイター、住民がコラボレーションしながら創造していきます。

スモールオフィスエリア 駐輪場の2階のロフトスペースを小規模オフィス棟にリノベーション。新しいサービスやブランドを展開するスタートアップや、それらを支える土業が集まるビジネスの新拠点へ。（その他のエリアは別紙参照）

また、街の声をうけ、以下の取組みも併せて実施します。テイクアウトしたものを食べたりひと休みしたりできる「ベンチ」や、フリーマーケットやマルシェなどみんなが集まれる「オープンスペース」、誰でも“小商い”にチャレンジできる「TRY STAND」、夜でも安心して歩けるような「照明改善」、皆さまの悩みの種を解消する「駐輪場」、イベント告知など気軽にまちへのお知らせができる「みんなの掲示板」。

なお、本プロジェクトを推進するにあたって、当社は学芸大学周辺住民や事業者、クリエイターの皆さまと積極的にコミュニケーションをとり、高架下の未来を共創してきました。具体的には、まちを練り歩きアイデアを集める「idea CARAVAN」、テーマ別に住民同士で対話する「学大未来作戦会議」、まちを掘り下げるコミュニケーションツール「学大コモン」、学芸大学在住のプロフェッショナルらで建築やデザインを具体的に検討する「ローカルプロダクション」等を展開してきました。

当社は、本プロジェクトを通じて、人的・物的な地域資源の活用、沿線地域との共創、近郊エリアでのオフィス機能の導入等に取り組んでいきます。今後も、自律分散型都市構造の考え方をベースとした職・住・遊の機能的配置、沿線地域にお住まいの方々と連携したまちづくりを目指します。詳細は、別紙の通りです。

学芸大学高架下リニューアルプロジェクト 計画概要

事業主体	東急株式会社
所在地	東京都目黒区鷹番3-2 ほか
工事内容	高架下建物の耐震補強工事 / 新築工事 / 商環境工事 ほか
設計	株式会社交建設計
デザイン監修	株式会社オンデザインパートナーズ
企画	合同会社ウェルカムトゥドゥ / omusubi不動産
工事	2023年7月頃～2024年春
デザイナーサイト	https://gakudai-koukashita.com

【ローカルプロダクション】

建築デザイン	LINEs AND ANGLES / mountain house architects / todo / LINE.inc
ランドスケープデザイン	soci.inc
照明デザイン	Tokyo Lighting Design
アートディレクション	Takubo Design Studio / 野田久美子 / 田口陵 (CIDER INC)
イラストレーション	くらちなつき / keikonbu / norahi / noa1008
ライティング	井澤梓 / 井上麻子 / 網田すずめ / むらやまあき
撮影	伊藤大介 / 田上浩一 / 土屋光司



スモールオフィスエリア イメージ



カルチャー&フードエリア イメージ

リニューアルエリア

リニューアル対象エリアは五本木から碑文谷公園周辺までのおよそ1km。

おなじみのエリアが少しアップデートしたり、「カルチャー」や「共創」をテーマにした新しいエリアが誕生します。



リニューアルコンセプト：南北1kmの“まちの縁側”

「まちに関わりたい」、「まちの人とつながりたい」、「まちにもっと居場所が欲しい」。

皆さまから寄せられた多くの声をヒントに、

リニューアルのコンセプトを「南北1kmの“まちの縁側”」に設定。

高架下をひとつの大きな縁側に見立て、お気に入りの居場所も、仕事も、友人も、ちょうどよく混ざり合うような場 所を目指して準備を進めています。

暮らしの中心がもっとローカルへ。

学芸大学が「最寄り駅」ではなく「ジブンのまち」となることを願って。

【縁側（えんがわ）】 内側と外側のあわい。公と私がほどよく混ざり合う空間。みんなの共有地帯。



ロゴマークについて

「学」の字のかんむりをモチーフとした一本の線と三つの点は、

学芸大学高架下と、そこに集う人々を表しています。

ときに「憩いの場」として、ときに「交流の場」として、ときに「学びの場」として—。

人と人を緩やかにつなぐ“まちの縁側”となり、多様な文化を育む“まちの背骨”となる、学芸大学高架下のシンボルマークです。



各エリアの概要



1 未来共創 エリア

2024年(春)予定

碑文谷公園に隣接した現駐車場エリアには、店舗とコワーキングスペース、アトリエ、オープンスペースを備えた複合施設が登場します。10年先の社会を見据えた新しい価値やサービスを、店主やワーカー、クリエイター、住民がコラボレーションしながら創造していきます。



2 カルチャー&フード エリア

2024年(春)予定

気軽に立ち寄れるカルチャーショップや、店主の個性が光る飲食店、こだわりのテイクアウト店など、学大の“ローカル”を感じられるお店が集結するエリアへと生まれ変わります。ベンチや植栽が増えて、テラススペースも充実。夜だけでなく朝や昼も滞在できる公園のような施設へ。



3 学大市場

食料品スーパーや各国料理店、カフェ、物産スペースなど「食」を中心にした多機能型のマーケット「学大市場」は、一部のエリアがリニューアルされ、買い回りがいま以上に充実します。



4 駅

東西の商店街と南北の高架下が交差する、学芸大学の玄関口。リニューアルでは高架下全体の案内図やイベントなどの街の活動を発信する掲示板を新たに設置予定。もっと楽しくワクワクする駅へ。



5 学大横丁

2023年(秋)予定

飲食店やスナックが軒を連ねる「学大横丁」は、既存の店舗はそのままに、照明が明るくなったり、外部空間が見直されたりと、より居心地のよい横丁へとアップデートします。



6 スモールオフィス エリア

2023年(冬)予定

駐輪場の2階のロフトスペースを小規模オフィス棟にリノベーション。新しいサービスやブランドを展開するスタートアップや、それらを支える土業が集まるビジネスの新拠点へ。



7 未定 エリア

時期未定

現在工事中の2026年開通予定の新道（補助26号線）完成に合わせてリニューアル検討中。これからのまちの発展や変化に柔軟に対応するための「余白」として、引き続き、まちの皆さまと一緒に活用方法を議論していきます。

(参考)
碑文谷公園活用

目黒区主体で碑文谷公園を対象にPark-PFIを検討中。2023年度にはトライアルサウンディングを実施、2026年度の事業開始を目指しています。



みんなで作る学大高架下プロジェクト

1 idea CARAVAN (練り歩きヒアリング)

カーゴバイクを使って街に練り出し200を超えるご意見やアイデアをいただきました



2 学芸大学未来作戦会議 (町内会 / 対話)

地元で暮らす方、ママパパさん、お店のオーナーなど、毎回たくさんの方たちと真剣討論



3 アイデア実践中（社会実験）

アイデアキャラバンや未来作戦会議で集まった声を実際に実践しました



4 学大コモン（ローカルメディア）

まちを掘り下げるコミュニケーションツール



表紙イメージ



中間イメージ

5 学大ローカルプロダクション

学芸大学在住のプロフェッショナルらで
建築やデザインを具体的に検討

